

京都の「金・銀・銅」

日本選手団のメダルラッシュに騒ぎすぎと感じながら冷ややかにパリオリンピックを見ていた自分がいる。一流のアスリートのハイレベルなパフォーマンスに感動したことは隠せないが、審判問題等なにやらすっきりしないことも多すぎた。なかでも、東国原は柔道が武道であるという根拠で号泣した阿部詩選手を批判し、和田アキ子はやり投げ金メダルの北口榛花選手をトドと揶揄した。政治評論家とか、芸能界のご意見番とか言うが二人とも節操がない。男子バレーの最後のサーブミスなどにも誹謗中傷が尽きなかったことも残念だ。自分の正義を他者に求める同一性こそが問題なのであるが、投稿者本人は気づいていない。

さて、気持ちを変えてメダルの「金銀銅」にちなんだ話にしたいが、京都に住む私にとって、「金銀」と言えば「金閣寺」「銀閣寺」に尽きる。

先日、所用があつて京都の「金閣寺」のバス停前を通った。猛暑にもかかわらず観光客でいっぱいであった。1397年に建造、放火による焼失などがあって現在の建物は1955年に再建されたものだが、2020年に屋根などのふき替えが終わり、まばゆいばかりの金の装いに一新されている。私には冬の雪化粧の金閣寺の方が愛着がある。

金閣寺に劣らぬ観光客が押し寄せているのが「銀閣寺」である。季節を問わず近くの「哲学の道」を訪れ、銀閣寺の観光を楽しむ人が多い。哲学の道は小さな小川(運河)の散歩道となっており、「銀閣寺→哲学の道→南禅寺」コースを散策する。春の桜のシーズンには、小川の遊歩道の満開の桜を楽しみ、5月下旬にはホタルの見ごろを迎える。今年もホタル目当てに訪れたが、8割が外国人観光客であることに驚いたものだ。

ところで金閣寺・銀閣寺は有名だが、金銀銅にちなんで「銅閣寺」はあるの?と思う人もいるにちがいない。実は一般公開されていないのであまり知られてはいないが、「銅閣寺」も確かに円山公園近くに存在している。

1928年、大倉財閥の実業家:大倉喜八郎が京都祇園にある自らの別邸地内に「金閣も銀閣もあるんだから、銅閣も作る!」と京都の名物にすることを考えて銅閣を建てたそうだ。祇園祭の山鉾をモチーフにし、その形から「祇園閣」と命名されたように雰囲気は独特である。

1587年に織田信長・信忠親子の菩提を弔うために烏丸二条に大雲院(だいうんいん)が建てられ、1973年に祇園閣の場所に移転してきたので、銅閣を有するのは大雲院となり「大雲院=銅閣寺」となり現在に至っている。信長親子の墓、大泥棒で有名な石川五右衛門の墓もあるが、夏の特別拝観の時にしか公開されていない。

豊翔高等学院では秋に京の散策をイベントとして実施している。前回は南禅寺から円山公園・三年坂を経て清水寺までのコースを私も生徒たちと歩いた。今年の秋は市バスを利用して、「金銀銅巡り」を学院長に提案しようと目下思案中である。

(丹羽
豊)